

（仮称）杉並区立アーバンスポーツパークの整備に向けた
調査等業務支援委託

業務報告書

令和7年3月

NPO 法人日本スケートパーク協会

目次

1. 背景と目的	3
2. アーバンスポーツとは	3
3. 本業務の流れ	4
4. 施設整備の実現性等に関する調査	5
(1) 建物本体の特性	
(2) 施設整備の実現性	
(3) 施設利用時間検討	
(4) 建物周辺の路面、迷惑行為発生の可能性調査・分析	
(5) 施設管理運営に係る人員及び費用の調査・分析	
5. 施設に関する需要・意識調査	9
(1) 調査内容	
(2) 調査概要	
(3) 調査結果	
(4) 評価・分析	
6. 合意形成（意見交換会の開催）	11
(1) 実施内容	
(2) 評価・分析	
7. 施設整備に係るビジョン（素案）の作成	12
(1) 実施内容	
(2) 施設整備の目的	
(3) 利用者ターゲット	
(4) ゾーニングプラン	
(5) 施設整備に当たって検討が必要な事項について	
8. まとめ	15

1 背景と目的

旧杉並中継所跡地について、杉並区では、令和元年度に、区の災害対策の一層の向上を図るため、防災拠点として活用することを決定するとともに、平時の活用方法については引き続き検討することとし、この間、民間事業者からの提案やヒアリング、区民アンケートを通じた意見聴取のほか、第三者（内閣府）の視点も取り入れながら検討を進めてきました。

また、旧杉並中継所跡地には、施設の構造上、撤去ができない柱があり、活用できるスペースが限定されるなど、様々な制約があります。

これらを踏まえ、杉並区では、令和6年度に、平時の活用方法として、旧杉並中継所跡地にアーバンスポーツができる施設を整備することを視野に引き続き検討を進めることとし、その実現可能性について、具体的に検討することとしました。

他自治体においても、アーバンスポーツができる施設の整備が進んでいますが、騒音や利用者のマナーに関する課題等により、施設の開設後に閉鎖となる事案も発生していることから、施設整備に向けては、周辺住民との事前の合意形成が大変に重要となります。

こうしたことから、本業務は、専門的知識を有する立場から、建物の特性を踏まえた施設整備の実現性や、施設の需要、地域住民等を対象としたアーバンスポーツに対する意識について、調査・集計・分析を行うとともに、区や地域住民、施設の整備を希望する方などとの意見交換を通じて、施設整備に関する事前の合意形成を図ることを目的として実施するものです。

2 アーバンスポーツとは¹

アーバンスポーツとは、都市環境の中で楽しむスポーツの総称です。主にスケートボード、BMX、インラインスケート、ストリートバスケットボール、パルクールなどがあります。

近年では、オリンピックの正式種目に採用されている種目もあり、注目が高まっています。一方で、国内では安全面や公共空間での利用の難しさから、専用施設の整備が求められています。

アーバンスポーツができる施設としては、スケートボードと BMX フリースタイル競技がオリンピックの正式種目に採用されたことをきっかけに、全国にストリートスポーツ²ができる施設（通称「スケートパーク」）が増加しています。

アーバンスポーツは、チームスポーツと違い、簡単な道具があれば一人でも楽しめるスポーツであることや、施設に集まった利用者同士がたたえ合うなど、コミュニケーションを取り合うことがしばしば見られるのも特徴です。

一方で、マナーが悪いなどのイメージを持たれやすいですが、地域に受け入れられる施設となるように、利用者が地域と話し合っ てルール作りをすることで、競技としてだけでなく、地域のつながりを生み出す可能性を持った、新しいスポーツ文化であると言えます。

¹ 詳細は別紙「詳細資料」P4～

² ストリートスポーツ：アーバンスポーツの中でもタイヤ（ウィール）が付いている種目

3 本業務の流れ

はじめに、施設整備の実現性調査として、建物や建物周辺について調査し、建物本体の特性、迷惑行為発生の可能性等について整理しました。その後、整理した内容を基に、施設整備の実現性について分析しました。建物本体の特性を整理する際には、施設内の各部屋の利用方法（ゾーニング）についても、併せて検討しました。

施設整備の実現性調査・分析に並行して、区が実施した、施設に関する需要・意識調査に関するアンケートの分析と、施設整備に向けた意見交換会の開催を支援しました。

なお、合意形成の当事者となる、地域住民団体及び利用者団体の結成支援を実施する予定でしたが、区と協議の上、今後の合意形成に向けた取組として、意見交換会の開催に加えて、地域住民及び利用者のそれぞれから個別に意見を聴取することとし、個別の意見聴取の実施を支援しました。

上記の調査・分析の結果と、区の取組への支援から得た情報を踏まえて、施設整備の目的、利用者ターゲット、ゾーニングプラン等を含んだ施設整備ビジョン（素案）を作成しました。

	R6.10月	R6.11月	R6.12月	R7.1月	R7.2月	R7.3月
施設整備の実現性調査・分析						
需要・意識調査						
合意形成 (意見交換会)						
施設整備ビジョン（素案）						
報告書作成						

4 施設整備の実現性等に関する調査

(1) 建物本体の特性³

調 査 内 容：旧杉並中継所跡地の敷地及び建物を調査し、施設内の各エリアにおいて、アーバンスポーツ施設として活用する場合の特性を整理しました。

また、整理した特性を踏まえて、各エリアの利用方法を複数検討しました。

主なスペースの活用方法：1階は、施設のメインエントランスや受付として活用できる部屋に加えて、会議室や待合いスペースなど複数の活用方法が考えられる部屋があります。また、中庭は駐輪場などで活用することが考えられます。

地下1階のホッパーステージについては、シャッターが付いており、外部への音の拡散の可能性が低いため、ストリートスポーツなど音の出る用途での活用に適しています。アーバンスポーツの多くは、上級者向けの施設とする場合に大規模な固定型の設備を設置する必要がありますが、災害時には防災拠点として活用するエリアであることから、固定型の設備の設置は困難です。そうしたことから、主な利用者ターゲットは、アーバンスポーツの初心者から中級者までに限定することが望ましいと考えます。

地下1階の昇降設備室については、半屋外のため、外部へ音が拡散する懸念があることから、音の出ない利用や臨時的な利用に適しています。

地下2階の機械室については、全て地下に埋まっていることから、外部への音の拡散の懸念が無い場合、ストリートスポーツなど騒音が課題となる用途で活用することに適しています。加えて、平時活用占用のエリアであるため、最大 1.8m の高低差を生かして、アーバンスポーツの上級者向けに大規模な固定型の設備を設置することも可能です。

³ 詳細は別紙「詳細資料」P14～

(2) 施設整備の実現性

調査内容：現地視察で整理した各エリアの特性を基に、平時活用（占用）エリアについて機械等を残した場合と撤去した場合の施設のイメージ図を作成し、実現の可能性について検討しました。

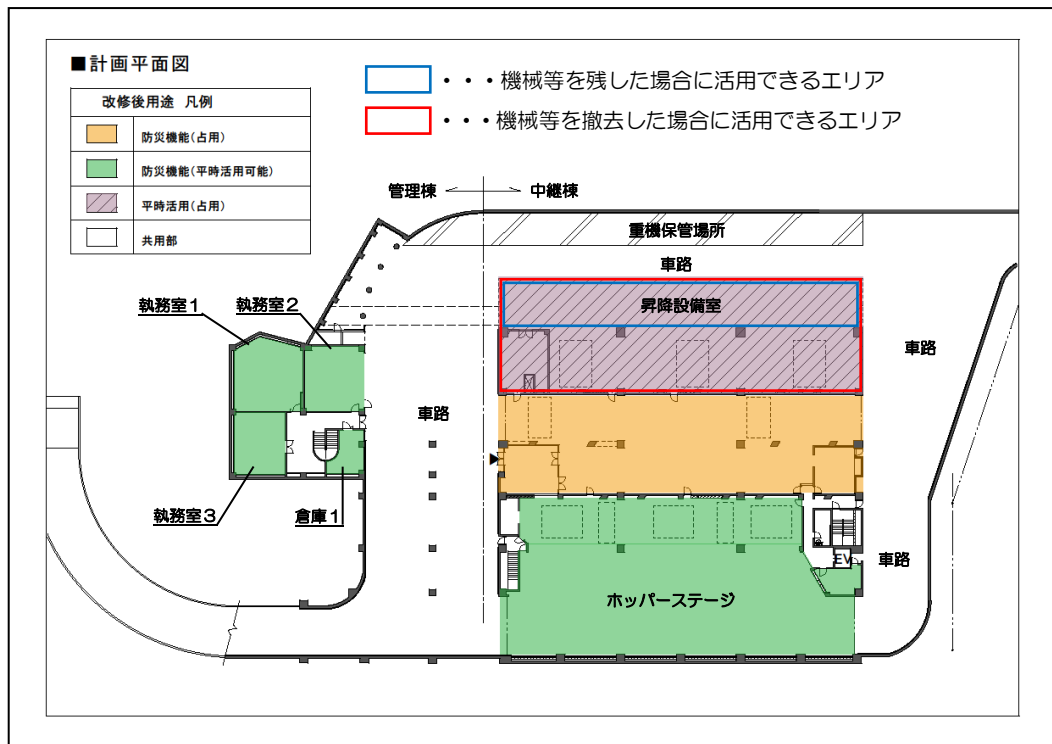


図1 地下1階の活用エリアのイメージ図

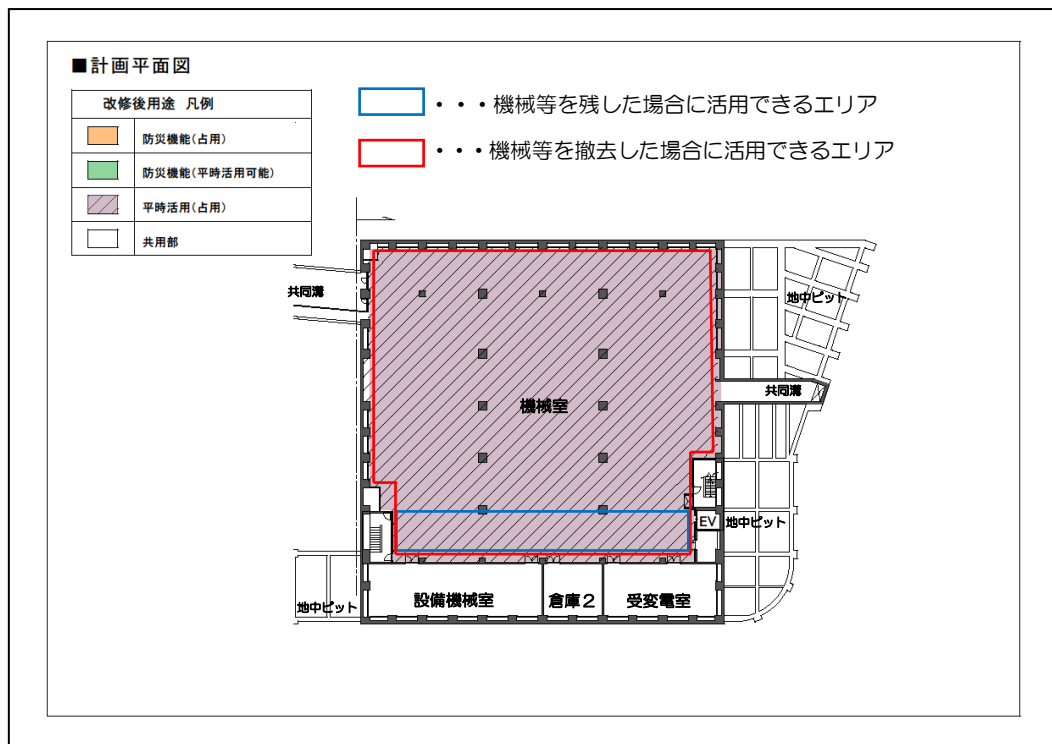


図2 地下2階の活用エリアのイメージ図

- (1)(2)の評価・分析：施設内には、様々な用途での活用が考えられる部屋が複数あるため、各部屋の利用方法や割り振りは、近隣住民や利用者等からの意見を踏まえて検討することが重要であると考えます。

施設内の既存の機械を全て撤去した場合には、地下1階、地下2階共に広いスペースを活用できるようになり、特に地下2階はアーバンスポーツの上級者向けに大規模な固定型の設備を設置することも可能です。なお、施設内の既存の機械を残した場合には、アーバンスポーツに活用できるスペースが一部に限られ、特に地下2階は、アーバンスポーツ以外の活用方法を検討する必要があります。

(3) 施設利用時間検討

調査内容：施設の特性、他自治体のアーバンスポーツ施設の状況、区内の体育施設の状況、アンケートの回答を踏まえて、施設の利用時間を検討しました。

他自治体の施設の例：

施設名	所在地	営業時間
すみだスケートボードパーク	墨田区向島	10:00～19:30
世田谷公園スケートボード広場	世田谷区池尻	9:00～17:00（4月から9月は19時まで）
戸吹スポーツ公園スケートパーク	八王子市戸吹町	8:00～22:00

評価・分析：アーバンスポーツ施設は子どもの利用が多く、平日の昼間の利用者は少ない傾向にあります。そのため、アーバンスポーツをしない方も利用できる施設として、平日昼間は多世代（主に未就学児及び高齢者）の利用を促すことで、施設の有効利用に繋がると考えられます。

他自治体の施設の状況を見ると、近隣に住宅街がある、すみだスケートボードパークや世田谷公園スケートボード広場などは、比較的早い時間に終了する一方、近隣に住宅街がない、戸吹スポーツ公園スケートパークなどでは、夜間も長く利用できる傾向にあります。旧杉並中継所は、近隣に住宅街がありますが、地下施設であり、夜間であっても外部に音が漏れにくく、既存の照明設備を生かせるため、柔軟な利用時間帯の設定が可能だと考えます。

そのうえで、区内の屋内体育施設の利用時間が、概ね9:00～21:00となっている状況を踏まえると、旧杉並中継所の利用時間を検討する際の目安として考えることができます。

また、アンケートの結果では、夜間の騒音や施設の照明が外に漏れることを懸念する意見があったことを踏まえて、スペースによって利用時間を変えるなど、施設周辺の住民に配慮してエリアごとの利用時間を設定することも有効であると考えます。

利用時間案：以上のことを踏まえて、旧杉並中継所においては、9：00～21：00 を利用時間として設定するとともに、施設周辺の住民に配慮して、外に照明の光が漏れる可能性がある昇降設備室などは、早めに閉めるなどの工夫が必要だと考えます。

（４）建物周辺の路面、迷惑行為発生の可能性調査・分析⁴

調査内容：駅や停留所から旧杉並中継所跡地までの路面調査（歩道や車道）を行うとともに、近隣の公園や施設周辺の私有建物等の周辺状況についても調査を行いました。

また、ストリートスポーツによる迷惑行為発生の可能性がある場所は、その対応策についても合わせて分析を行いました。

評価・分析：現時点でストリートスポーツによる迷惑行為の発生が懸念される場所は多くはなかったですが、今後施設ができることによって、施設利用者が用具を持って集まることが予想される駅周辺や公園内での移動、施設周辺での練習等の迷惑行為の発生が懸念されるため、施設を整備する場合は対策を講じる必要があります。

主な対策案：

- ・施設利用を登録制にし、利用登録の際に施設周辺の公園、道路、歩道等でのストリートスポーツ等の用具の利用及び迷惑行為を行わない等の制約に同意してもらう。
- ・井草森公園内及び周辺道路、駅前等にストリートスポーツ等の用具の利用禁止の看板を設ける。
- ・井草森公園内を施設管理者が定期的に巡回し、付近に滞留しているストリートスポーツ等の用具の利用者がいれば施設へ誘導する。
- ・ストリートスポーツ等の用具は、必ずバッグに入れて持ち込むことをルール化する。

⁴ 詳細は別紙「詳細資料」P30～

(5) 施設管理運営に係る人員及び費用の調査・分析

調 査 内 容：施設の管理運営に必要な人員や経費について、機械設備を撤去した場合を想定し、調査・分析を行いました。

評価・分析：他のアーバンスポーツ施設について、公園に併設された無人施設などもありますが、国内にある屋内施設は、すべてが有人管理です。

旧杉並中継所は、屋内施設で3階層の建物であることを踏まえて、運営には以下のような人員配置が望ましいと考えます。

- ・施設全体の責任者（1名）
- ・施設全体の入退場受付（1名）
- ・地下1階フロアのアーバンスポーツ施設監視員⁵（1名）
- ・地下1階フロアのアーバンスポーツ施設安全対策員⁶（1名）
- ・地下2階フロアのアーバンスポーツ施設監視員（1名）
- ・地下2階フロアのアーバンスポーツ施設安全対策員（1名）
- ・施設内部及び外部の巡回監視員⁷（1名）

1日：12時間稼働（14時間就業）とした場合のそれぞれの交代要員（各1名）
合計14名/1日の人員配置が必要（休憩交代引継ぎ時間含む合計98時間）
になると考えます。したがって、年間の人件費として少なくとも以下の費用
が掛かることが見込まれます。

【人件費：98時間/日 × 347日 × 1,163円⁸ = 39,548,978円/年】

※区立の体育施設の運用を参考に、1日/月の休館（12日）及び年末年始
（12/29～1/3）の休館（6日）を考慮して年間の稼働日を347日と想定。

⁵ アーバンスポーツ施設監視員：一般的な施設における警備員

⁶ アーバンスポーツ施設安全対策員：アーバンスポーツができるスペースで事故などが起こらないよう、見守りを実施する人員。アーバンスポーツの経験者の配置が望ましい

⁷ 施設内部及び外部の巡回監視員：施設内外でマナー違反などが起こらないよう巡回する人員

⁸ 調査時点（令和6年10月）の東京都の最低賃金

5 施設に関する需要・意識調査⁹

(1) 調査内容

アンケートを実施し、施設に関する需要やアーバンスポーツへの意識について調査しました。

(2) 調査概要

実施期間：令和6年11月1日～令和7年1月31日

実施方法：ウェブアンケート及びFAXによる回答

回答者数：505名（内、区民は491名）

(3) 調査結果

別紙詳細資料のとおり

(4) 評価・分析

回答者のうち約20%が「アーバンスポーツの経験がある」と回答しており、特にスケートボードの経験があると回答した方は最も多く、回答者全体の約12%を占めていました。現在、区内にアーバンスポーツができる施設は少ないため、アーバンスポーツの経験がある方は、専用の施設が整備されることで、施設の利用者として訪れることが期待できます。

このことから、旧杉並中継所にアーバンスポーツができる施設を整備することについて、一定の需要を見込むことができます。また、アーバンスポーツの中でも、最も経験があると回答した方が多い、スケートボードができる施設とすることで、多くの需要を見込むことができると考えます。加えて、現在区内には、スケートボードができる場所がなく、整備されることで、区民に新たな運動の機会を提供することが期待できます。

アーバンスポーツに対する印象について「良い（22.2%）」と「どちらかというの良い（24.6%）」と答えた方の割合の合計が46.8%と、肯定的な意見が一定程度あることがわかりました。また、「どちらかというの悪い印象（12.5%）」「悪い印象（6.9%）」と回答した方の理由には、「マナーの悪さ」「騒音」「治安の悪化」が多く挙げられていました。しかし、アーバンスポーツに対して悪い印象を持っている方の中には、「アーバンスポーツを知っていますか」という質問で、「ほとんど知らない」、「全く知らない」と答えている方もおり、アーバンスポーツのことはあまり知らない一方で悪いイメージを持っている方がいることがわかりました。これらの課題解決に向けては、マナー問題や騒音問題、治安の悪化といった印象を与えている原因や個別の問題について、具体的な対策の検討や相互理解を促す仕組みづくりが必要です。

「区内にアーバンスポーツ施設を整備すること」に関しては「良いと思う（50.1%）」と「どちらかというの良い（18.4%）」と答えた方が合わせて68.5%、「旧杉並中継所跡地を活用すること」に関しても「良いと思う（48.3%）」と「どちらかというの良い（15.6%）」と答えた方が合わせて63.9%と、いずれも肯定的な意見が多く、施設に隣接する地域（井草、上井草、下井草）の回答に限定した場合でも、全体回答と比較しても、肯定的な意見が大きく減少することはありませんでした。そうしたことから、区内にアーバンスポーツ

⁹ 詳細は別紙「詳細資料」P32～

施設を整備すること、および旧杉並中継所をアーバンスポーツができる施設として活用することについては、多くの区民の期待が寄せられていることがわかりました。

施設整備に関する懸念事項として、「周辺路上での滑走など、危険性がある行為の発生の問題（54.3%）」「騒音の問題（36.6%）」「施設周辺に住む人への影響（35.4%）」が上位を占め、周辺住民の生活環境への影響が、特に大きな課題と考えられていることがわかりました。自由記述では「公益性の担保」「利用ルールの明確化」「管理体制の強化」「安全性の確保」を求める声が多く、施設利用者及び地域住民等から理解が得られる運営方針の策定が必要です。

合意形成（意見交換会の開催）¹⁰

（１）実施内容

旧杉並中継所にアーバンスポーツができる施設を整備する可能性について、整備を希望する方や不安を持つ方などからの様々な意見を聴きながら共に考えるため、意見交換会を開催しました。

区の募集に対し 30 名の応募があり、出席者同士で施設の整備について意見交換を行いました。

第 1 回：令和 6 年 11 月 17 日（日） 出席者：25 名

- 【主なテーマ】・旧杉並中継所の跡地活用の検討経過について理解すること
- ・アーバンスポーツについて理解を深めること
 - ・旧杉並中継所にアーバンスポーツができる施設を整備した場合の影響や、施設整備に当たっての課題・解決策等について意見交換すること

第 2 回：令和 6 年 12 月 14 日（土） 出席者：18 名

- 【主なテーマ】・第 1 回の意見交換会で出た意見等を振り返り共有すること
- ・第 1 回の意見を踏まえて、アーバンスポーツができる施設を整備する場合の課題の解決策を具体化すること

第 3 回：令和 7 年 1 月 19 日（日） 出席者：20 名

- 【主なテーマ】・これまでの意見交換の内容を踏まえて、具体的な施設の活用案を考えること
- ・意見交換やゾーニング案の検討等を通じて自身の活用案をブラッシュアップすること

¹⁰ 詳細は別紙「詳細資料」P42～

（２）評価・分析

全３回の意見交換会を通して、特に施設外での利用（スケートボード等の滑走）や施設利用者のマナー違反等による住環境の悪化を懸念する意見を多くいただきました。この課題の解決に向けては、意見交換会の中でも様々な提案がありましたが、施設内外における看板等の設置や、施設職員による巡回はもちろんのこと、施設利用者と地域住民等が施設利用に関して意見交換できる場を定期的に設け、その場で出た意見を施設の運営に生かすことができる仕組みづくりが重要であると考えています。これにより、利用者がルールを守って施設を利用するようになるだけでなく、地域住民等とコミュニケーションをとることで、地域コミュニティの強化や地域の活性化が期待できます。こうした点を踏まえて、施設の整備がゴールではなく、施設整備後も地域住民から継続して愛される施設にするための仕組みづくりを、より一層検討していく必要があると考えます。

また、施設利用者や施設のコンセプトについて意見交換をした際には、アーバンスポーツ施設単独ではなく、多世代が気軽に交流できる場として活用することを求める意見を多くいただきました。

第３回の意見交換会においては、各スペースごとの活用用途について様々な意見をいただいたことから、今後は、具体的な施設の活用案（ゾーニング）を区が示して、近隣住民等から意見聴取を行っていくことが有効であると考えます。

この会の最後に、出席者全員で車座になり、意見交換会に参加した感想等を共有したところ、「反対と思って参加したが、より良いモノをつくろうという姿勢を感じて気持ちが変わり、どういうものをつくると良いかを考えられた。」という意見がありました。

意見交換会に参加された方が、施設に求められることなどについて意見を交わし、アーバンスポーツの種目やアーバンスポーツ以外にあると良いスペース、大切にしたい施設のコンセプト等について意見交換を行った結果、施設整備に前向きな意見も聞かれたことなどから、今後の施設整備に向けた合意形成の契機になったものと考えます。

また、「自分の住む地域をより良くするための取組に参加できてよかった。」という意見もあり、参加者にとって意見交換会が、地域の取組に関わるきっかけになったことがわかり、今後の地域にとっても重要な取り組みになったと考えられます。

このように、施設の開設前から区が近隣住民等と丁寧に対話を行うことは数少ない取組です。他のアーバンスポーツ施設では、そのような機会を十分に設けず整備した結果、近隣からの理解を得られず閉鎖した事例もあることから、今回のように、意見交換会で多くの対話の機会を設けるとともに、一部の参加者から、整備に対して一定の理解を得られたことは、大変に有意義であったと考えます。

７ 施設整備に係るビジョン（素案）の作成

（１）実施内容

施設整備の実現性等に関する調査、施設に関する需要・意識調査、意見交換会の内容を踏まえて、施設整備の目的、利用者ターゲット、ゾーニングプラン等を含んだ施設整備ビジョン（素案）を作成しました。

(2) 施設整備の目的

アーバンスポーツをきっかけに、多世代の地域住民の繋がりを創出できるような施設

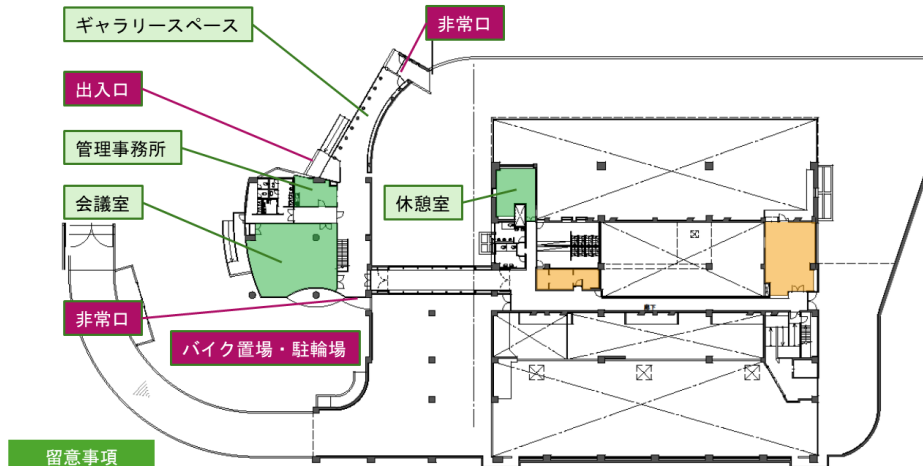
(3) 利用者ターゲット

アーバンスポーツをするしないに関わらず多世代の方

(4) ゾーニングプラン

1階

- ・ 1階には、バイク置場・駐輪場、出入口、非常口等の主な管理機能を持たせます。
- ・ 来訪者の目につきやすい場所をギャラリースペースとして、施設情報の周知機能を持たせます。
- ・ 会議室では施設運営に関する課題を協議する「利用者協議会」や、施設利用の際の安全講習やマナー講習などを行います。
- ・ 休憩室には、乳幼児の授乳室としての機能を持たせることで、子育て世代が来訪しやすい施設として整備します。

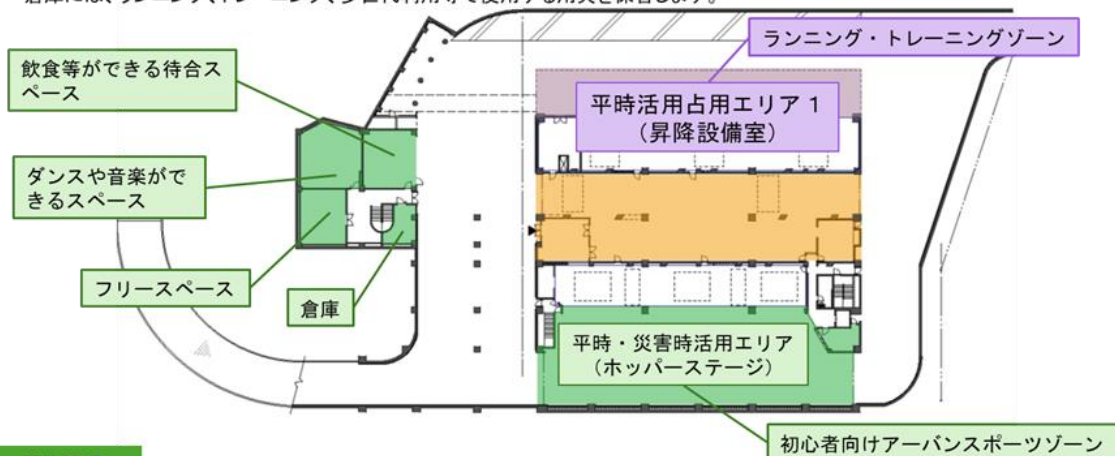


留意事項

- ・ 管理事務所の左側及び休憩室の前にあるトイレとシャワー室をそのまま使用するのか、配管等の劣化状況を踏まえて検討する必要があります。

地下1階

- ・ 地下1階の執務室には用途を記載していますが、フリースペースとしての活用も可能であるため、利用者の使用用途によって使用用途を変えさせられる柔軟性を持たせることで、よりニーズに合った利用を促せると考えます。
- ・ 半屋外となる平時活用占用エリア1（昇降設備室）は、音の出ないランニング・トレーニングゾーンとします。
- ・ 平時・災害時活用エリア（ホッパーステージ）は、初心者向けのアーバンスポーツゾーンとします。
- ・ 倉庫には、ランニング、トレーニング、多世代利用等で使用する用具を保管します。

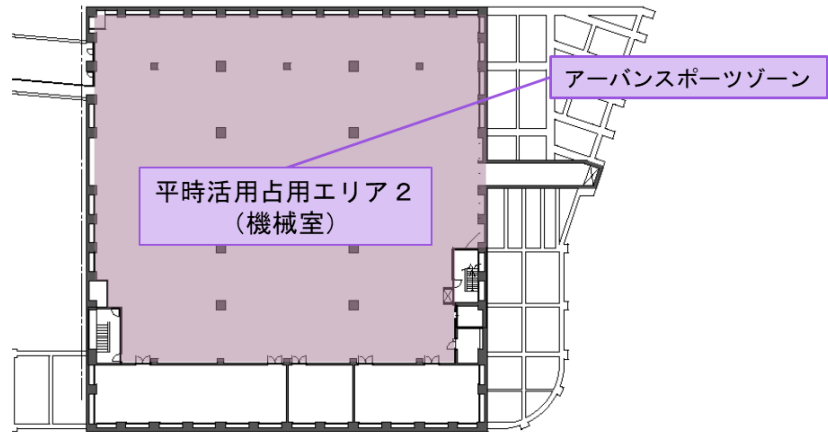


留意事項

- ・ 平時活用占用エリア1（昇降設備室）は半屋外であり、近隣に音が漏れやすい場所にあるため、音の出る使用には注意が必要です。
- ・ 平時・災害時活用エリア（ホッパーステージ）は、シャッターを閉めて利用する必要があります。
- ・ 平時・災害時活用エリア（ホッパーステージ）に機械を残す場合、エリア内を仕切る防火シャッターを閉める必要があります空間が狭くなります。
- ・ 平時活用占用エリア1（昇降設備室）は、機会を撤去した場合は、より広いスペースを活用することが可能です。
- ・ 平時活用占用エリア1（昇降設備室）に機械が残す場合、エリア内に風雨の吹込みが起こるため、天候によっては利用できません。

地下2階（機械を撤去した場合）

- 現状多くの機械が設置してありますが、機械を残しての活用用途は制限が多く、実際は平時利活用に適さない考えるのが妥当です。そのため、機械を撤去して、平時活用占有エリア2（機械室）の持つ1.8m程度の高低差等の特徴を活かした複数のアーバンスポーツ利用可能場所として活用することを提案します。
- 具体的には、ストリートスポーツ、パルクール、3×3バスケットボール、ブレイクダンス、ダブルダッチ等の競技ごとに利用しやすい場所を設定し、活用することを想定しています。

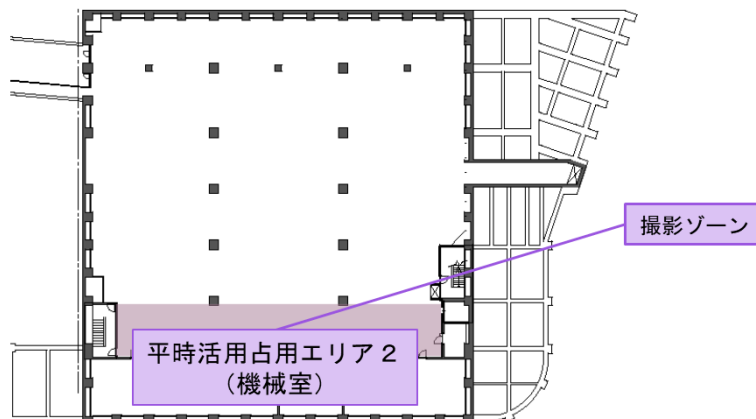


留意事項

- このエリアは全体で1,813.5㎡と広いですが、機械を撤去した場合でも施設の構造上最大1.8m程度の高低差が残ります。
- 混在する種目間で、用具の飛び出しや転がり、衝突等の危険がありますが、場合によっては「各種目専用ゾーン」をネットフェンスなどで囲い、安全対策をする必要があります。

地下2階（機械を残した場合）

- 建物地下2階の機械を残した場合は、十分なスペースが確保できずアーバンスポーツで活用することは困難です。
- 機械を残したまま活用する場合は、安全に配慮した上で、アーバンスポーツ以外での活用（施設見学や施設の撮影利用など）が考えられます。



留意事項

- 機械を残した場合に活用できるエリアは約195㎡となります。
- 活用できるエリアにも、施設管理運営者立会いの下、徹底した安全管理を行ったうえで利用する必要があります。
- 利用者のみでの入場及び利用は適さないゾーンです。

（５）施設整備に当たって検討が必要な事項について

アーバンスポーツには様々な種目がありますが、利用場所が少ないことから、一般的には国内で目にする機会は少ないと思います。オリンピックの影響もあり、アーバンスポーツのイメージは少しずつ改善してきていますが、一部の利用者のルール違反等により、良くないイメージを持たれている方もいます。今回のアンケート結果においても、アーバンスポーツに対して良くないイメージを持っている方が一定数いることがわかりました。

そのため、杉並区において、地域住民と施設利用者の相互理解を深めるきっかけとして、地域住民が実際にアーバンスポーツに触れる機会を設ける取組が有効であると考えます。具体的には、期間限定の体験会等を開催し、アーバンスポーツを見たり、体験したりすることや、アーバンスポーツを楽しんでいる方とコミュニケーションを取る機会を設けることなどが考えられます。これにより、アーバンスポーツについて、イメージだけでなく実際に触れた上で、意見交換をすることができ、区や地域にとってより良い施設整備につながると考えます。

加えて、施設の整備に向けては、利用者がルールを守って施設を利用する意識を向上させることが重要であると考えます。アンケートや意見交換会を踏まえると、区内には一定程度のアーバンスポーツを楽しんでいる方がいると見込まれます。そのような方たちを集めて、施設のルール等を協議する場や、近隣住民等から意見を伺う機会を設けるなど、区の取組を通じて施設の整備を希望する方同士の関係を構築し、最終的には利用者団体として施設運営に積極的に関与してもらうなどの、迷惑行為等の減少に向けた取組が必要であると考えます。

施設整備に向けては、施設整備を希望する方のみではなく、整備に不安を感じる方や、より大きい影響を受ける施設の周辺住民からも意見を聴いていく必要があるとともに、その意見をきちんと反映していく仕組みを整える必要があります。

協会としては、「利用者協議会」を設置し、施設の運営方法や施設整備に伴う課題の具体的な解決策等を住民同士が意見交換することが有効であると考えており、普段から施設のことについて対話ができる環境を設ける必要があると考えます。

8 まとめ

今回の業務の結果、建物本体の特性に関する調査では、地下1階のホッパーステージと地下2階においては、スケートボードなどのアーバンスポーツをするために十分なスペースが確保でき、建物の特性でもある高低差を生かした設計が可能であるとともに、近隣への騒音の可能性も低いことが確認できました。国内において、旧杉並中継所と同規模の屋内アーバンスポーツ施設は数少なく、整備された場合には、他にはない特徴的な施設として多くの利用者が集まることが予想されます。

一方で、整備にあたっては、元々は清掃関連施設であったことや屋内施設であり空調等の設備が必要になることに加え、地下2階を活用する場合は、既存の機械設備を撤去する必要があることから、多くの整備コストがかかることが考えられます。

アンケートでは、回答者のうち約20%が「アーバンスポーツの経験がある」と回答しており、旧杉並中継所にアーバンスポーツができる施設を整備することについて、一定の需要を見込むことができることがわかりました。また、意見交換会では、施設の整備を希望している方や、不安をお持ちの方など様々な意見を聴きながら共に考えることができました。

このように、施設の開設前から近隣住民等と丁寧に意見聴取を行う例は少ないですが、意見交換会で対話の機会を設けた結果、整備に対する一定の理解が得られたことと、課題に対する対応策を共に考えることができたことは、利用者及び近隣住民等に親しまれる施設の整備に向け、大変に有意義であったと考えます。

以上のことから、今回の業務の結果を踏まえると、旧杉並中継所にアーバンスポーツができる施設を整備することは可能であると考えますが、アンケートや意見交換会においては、周辺路上での滑走や周辺に住む方への影響を懸念する意見も出されており、こうした近隣住民等が抱える不安については、適切に対応できるよう、区が具体的な対応策を近隣住民等に示して、意見を聴いていく必要があると考えます。

また、意見を聴いていく際には、アーバンスポーツへのイメージのみで意見交換がなされないよう、近隣住民等がアーバンスポーツに触れられる機会を設けることも重要であると考えます。

なお、アーバンスポーツができる施設が整備された場合には、施設利用者と近隣住民等が施設利用に関して意見交換できる場を定期的に設け、その場で出た意見を施設の運営に生かすことができる仕組みづくりが重要となります。これにより、整備後も利用実態に応じたルールの見直しができるだけでなく、地域住民等とコミュニケーションをとることで、地域コミュニティの強化や地域の活性化が期待できます。こうした点を踏まえて、施設の整備がゴールではなく、施設整備後も地域住民から継続して愛される施設となる仕組みづくりを、より一層検討していく必要があると考えます。